

平成 22 年 3 月 20 日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム

### 平成 22 年 第 3 回講話

#### 一日 5 つの確認

世の中は嘘をつく人が多すぎます。嘘をつきすぎるとこういう顔になる、というよい例が毎日テレビに出ています。嘘をつかないと良い顔になると思います。

では、お聞きします。

ここ 2、3 日嘘をつかなかった方？

・・・はい、有難うございます。2、3 日から 1 週間、1 ヶ月・・・これをずっと通して、半年とか 1 年となっていくます。私は毎晩寝る時に、<今日は嘘をつかなかったかな>と自問自答して眠るのが習慣になっています。以前は、今日 1 日をずっと思い出して確認をしていたのですが、最近は確認しないでずっと頷けるようになったと実感しています。

その他に、<今日は良い日だったか> <運動をしたか> <有難うと言い、有難うと言われたか> <明日夜寝る時は、今日は良い日だったと思って眠れるか>、この 5 つを確認して眠るようにしています。

ここ 2、3 日有難うと言い、有難うと言われた方？

(・・・沢山手が拳がる) 一人だけ手が拳がりませんでした。

ここ 2、3 日良い日が続いていると思う人。

・・・はい、有難うございます。私は良い日が続いているなと思うことにしています。良かったと思えることが一つでもあれば、その日は良い日なのです。良いこと悪いことの比率ではなく、何か一つ心がほっとすることがあれば、悪いことは消えてしまうと思うようにしています。

#### 良書の紹介

本日紹介する本は、『脳に悪い 7 つの習慣』(林成之著 幻冬舎新書)です。

本には一度手に取ってさっと読んで終りにする本と、読んだ後、又読みたくなくて 2 回、3 回と読んでしまう本があります。何度も読み直していると、自分の氣にいった科白

が染み込んでいきますし、だんだん行動に移れるようになる。何度も読みたいと思う本は、何かその本が訴えてきているのだと思うし、自分もその本から何かを汲み取りたいと思っているのだと思います。そういう本にめぐり合えれば素晴らしいと思います。

『脳に悪い7つの習慣』は、そういう類の一冊です。少しご紹介しますと、人間の脳には3つ本能があるそうです。一つは、知りたいという欲求。二つ目は生きたいという欲求。三つ目は仲間を作りたいという欲求です。この三つが、脳の仕組みで基本的なものだそうで、脳は人間が何か行動をする時に、基本的に喜びたいという欲求があるそうです。

そのあたりを味わっているうちに、松永安左工門（1875 - 1971、号は耳庵）を思い出しました。電気王と言われた方です。人間がものになる時は、3つの条件があるそうです。一つは、大病を患って、死に直面した時。こういう体験が必要だということです。二つ目が投獄された時。三つ目は倒産をした時です。倒産すると誰も寄り付かなくなります。この三つの体験をすれば、人間はものになると言いますが、ひっくり返せば、松永安左工門はそういう体験をしたということです。これが、そのまま脳の仕組みにつながると思います。

仲間が欲しいというのは、世の中に貢献して、世の中の役に立つことが嬉しいと思う仕組みが脳の中にあるということです。自分だけ利益をあげて良かったという感覚は、人間本来の脳の仕組みにはあり得ないこととなります。「最近の、私利私欲を貪るという考え方は、人間本来の脳の仕組みとは違うので、時代の流れで進んでいけば人間本来の脳の仕組みに立ち返るのではないか」と書いてありまして、非常に共感を覚えました。

世の中に貢献して生きてゆくことが嬉しいと感じる脳の仕組みは、陽明学の事上磨錬に直結します。レジュメをご覧戴くと、本日のテーマとして「事上磨錬」と書きました。自分の仕事が世の中の役に立っているか。これはどうぞ自問自答して戴くとよろしい。自分の今やっている仕事は世の中の役に立っているか、そう実感できれば良い人生です。

## 論語から今を見る

では、論語の解説に入ります。本日の論語は、公冶長第五 12～18 です。

【十二】 しこういわ 子貢曰く、ふうし 夫子の文章は得て聞くべし。ふうし 夫子の性せいと天道てんどうとを言うは、得て聞くべからざるなり。

文章とは、書いた文章ではありません。文化の表現（その人の顔つきや言葉遣い、態度等をひっくるめて）とお考え下さい。現代の日本語で、日本の文章・常識で論語を読んで

いくと、時々おやっと思ふことがあります。

子貢が言いました。

「孔先生の文化の表現はよく耳を澄ませて聞くが良い。人間の本性と天道（自然のルール）については、聞いてもなかなかよくわからない」

孔子の顔を見ていても、話を聞いていても、分からないことはあって当たり前で、全部が全部分かるわけがない。自然のルールは、人間を踏み潰すこともあると理解した方がよい。そういう読み方をすると良いでしょう。

今風に見れば、あの人は素晴らしいと誰もが言う人に実際に会って、話を聞いてみて、果たして素晴らしいのかなと首を傾げたなら、首を傾げた方が正しいのです。自分の心に素直に見ればよい。他人の意見で自分を動かさない方がよいと読み込んで下さい。

【十三】 しろうき 子路あ聞くこと有りて、いま未だこれ之をおこな行あたう能ただきわざれば、あ唯おそ聞くこと有らんを恐る。

子路は孔子から教わったことを一所懸命努力して実践し、身に付いたと思わなければ、その次の教えを聞くことを恐れた。

子路のような人物は滅多にいません。子路ほどお師匠さんの教えを努力し実践した弟子は少ない。教える側の孔子としては、なかなか見所がある良い人物だけれども、少し時間がかかり過ぎるという意味を含んでいるのでしょうが、子路が粗野なのだと解釈すればよいでしょう。

【十四】 しこうと 子貢いわ問いて曰く、こうぶんし 孔文子なには何をもつ以て之をこれ文とぶん謂うやと。い子曰く、しいわ敏びんにして学がくを好み、この下問かもんをは恥じず。ここ是をもつ以て之をこれ文とぶん謂うなりと。

子貢が孔子に聞きました。

「孔文子はそれほど素晴らしい人ではないのに、何故、文というおくり名（死者に贈る称号）が付いたのですか」

孔子が言いました。

「孔文子は頭の回転が速い。学問を好んで、自分より目下の人間に聞いてもいっこうに恥じないから、文というおくり名を得たのだ」

孔文子は衛という国の大夫で、かなり勢力のある政治家でしたから、態度が大きかったのだらうと思います。その人に対して、文というおくり名を出した。孔子は、孔文子は王

族の一人でもあるし、態度が横柄で文というおくり名に値しないかもしれないけれども、その中で学问が好きで下問を恥じない所が良いのだと言っています。

氣に喰わない人間であっても、良いものがあればそれを見つけて褒めればよい。お前も頭の回転は速いけれども、それだけで世の中を渡れない。学问を好み下問を恥じないようにしたらよい・・・と子貢に対して諭している状況です。

【十五】 子<sup>し</sup>子<sup>し</sup>産<sup>さん</sup>を謂<sup>い</sup>う。君<sup>くん</sup>子<sup>し</sup>の道<sup>みち</sup> 四<sup>よ</sup>つ有<sup>あ</sup>り。其<sup>そ</sup>の己<sup>おのれ</sup>を行<sup>おこな</sup>うや恭<sup>きょう</sup>。其<sup>そ</sup>の上<sup>かみ</sup>に事<sup>つか</sup>う  
るや敬<sup>けい</sup>。其<sup>そ</sup>の民<sup>たみ</sup>を養<sup>やしな</sup>うや恵<sup>けい</sup>。其<sup>そ</sup>の民<sup>たみ</sup>を使<sup>つか</sup>うや義<sup>ぎ</sup>と。

孔先生が子産について批評をした。

君子の道は四つある。人に接する時には恭(謙遜)、上司に仕える時には敬(敬うこと)、国民を治めるには恵(思いやり)、国民を使う時には義(公正)が必要である。

民主党の各大臣を、この文章から評価してみましょう。

人に接する時には謙遜を旨とする・・・今の大臣方にいるでしょうか。鳩山さんは人に接する時には謙遜した言葉を使い、そういう顔をしています。しかし何か後ろが透けて見えるような気がします。菅さんは、次に総理大臣の椅子が転がり込んでくるから、ここは控え目に謙ってものを言わなければいけないというのが見え見えの感じがします。人に接している時の態度が謙っているか、ひとりひとりの大臣の顔を思い浮かべてみると、これは無理だなと思わざるを得ません。

上司に仕える時には、恭しくしているか・・・副幹事長の生方さんが、公然と小沢幹事長に反旗を翻しました。もう少し恭しく仕えても良いでしょう。諫言の仕方が、もう少し違う言い方・やり方があったと思います。民主党の人達は口をつぐんでいるだけであって、謙ったり慎んだりというものではないと思います。

思いやりをもって国を治めているか・・・民主党は凄まじく厚生面でばらまきをしていますから、思いやりを以って治めていると鳩山さんは思うかもしれません。子供手当てに関して町の声を聞くと、「子供手当てを貰うより保育園を作って欲しい」という声の方が多い。マスコミがそういうものをこぞってとり上げているように見えます。本当の意味での思いやり、子供手当てであればどういう目的なのかをしっかりと詰めて、実行していかなければならないだろうと感じます。

民を使役に使う時には、公正かどうかを考えてから行っているか・・・論語の時代は労働を提供することをしましたので、今の時代とは少し違います。ただ、民主党が色々なこ

とを行う上で、正しいか正しくないかの判断基準は非常に少ないと感じます。群馬で言えば八ツ場ダムは、政治判断として一部工事の続行が決まりました。民主党の政治判断も行き当たりばったりでやっているなど感じます。

このように論語の言葉と照らし合わせると、非常に分かりやすく飲み込めてきます。

【十六】 しいわ 子曰く、あんべいちゅう 晏平仲 よ 善く ひと 人と まじわ 交る。 ひさ 久しくして これ 之を けい 敬す。

晏平仲は齊という国の宰相（内閣総理大臣）です。

晏平仲は色々な人とよくお付き合いをするけれども、暫くすると、皆が敬意を払うようになる。

遠くから見ていると素晴らしいけれども、近くでお付き合いを深くしてみるとそれほどではない、富士山のような人が結構います。付き合いえば付き合い合うほど欠点が見えてくる人が多い。この晏平仲は、長く付き合いえば付き合い合うほど、自然と皆から敬意を払われるような人物だということです。孔子はこういう人になりたいと思っているのでしょう。

皆さんの周りに晏平仲のような人はいませんか。私は木内信胤先生を思い出しました。付き合いえば付き合い合うほど自然と周りの人が敬意を払うような、又は、自分にも参考になるような人です。そういう人に巡り会うのも、本人の見つけたいと思う気持ちが出会わせてくれると思うので、是非そういう習慣をお持ちになると良いと思います。

【十七】 しいわ 子曰く、ぞうぶんちゅう 臧文仲 さい 蔡を お 居き、 せつ 節に やま 山し、 せつ 椀に も 藻す。 いかん 何如ぞ そ 其れ ち 知らん。

増長するなということです。

臧文仲も齊という国の人で、知恵者と言われている人ですが、孔子は何故この人が賢いのかと評しています。

蔡とは大亀の甲羅です。当時、知恵者は吉凶を亀の甲羅や鹿の角の割れ目模様で占ったわけです。占いが出来る人というのは、やはり知恵者ということです。

孔子が言うには、臧文仲は大亀の甲羅を家に沢山積み上げて、天子の建物のように、柱に亀の模様を掘り込んだり、うだちに藻の模様を描いている。天子の建物に許されている彫り物であり、模様であるにもかかわらず、なぜこのようなことをしているのか。

自分の勢力が強いので、どこからも文句が来ないから増長している、と孔子が批評しています。

こういう人は世の中に結構います。お城みたいな家や成金趣味の豪華な建物を建てたり

すると、税金対策はどうなっているのかと思っけてしまいます。

【十八】 子張しちょうと 問いわいて曰れいく、令尹れいいん子文しぶん、三みたび仕つかえて令尹れいいんと為なれども、喜よろこべる色いろ無し。  
三みたび之これを已やめらるれども、慍いきどおれる色いろ無し。旧い令尹れいいんの政まつりごとは、必かならず以もつて新しん令尹れいいんに  
告つぐ。何いかん如しと。子ちゆう曰いわく、忠じんなりと。曰いわく、仁いなるかと。曰いまく、未いだ知しらず、焉いぞ仁じん  
なるを得えんと。崔さい子し 齊せいの君きみを弒しいす。陳ちん文ぶん子し 馬うま 十じゅう 乘じょう 有あり。棄すてて之これを違さる。他た邦ほうに  
至いたれば則すなわち曰いわく、猶なお 吾わが大夫たいふ崔さい子しのごときなりと。之これを違さる。一いっ邦ぼうに之ゆ之すなわければ、則すなわち  
又また曰いわく、猶なお 吾わが大夫たいふ崔さい子しのごときなりと。之これを違さる。何いかん如しと。子ちゆう曰いわく。清せいなりと。曰いわ  
く、仁じんなるかと。曰いわく、未いだ知しらず、焉いぞ仁じんなるを得えんと。

子張が孔子に聞きました。

「内閣総理大臣の子文は、三回総理大臣に任命されたけれども、少しも喜ぶ様子はなかった。又、三回総理大臣を辞任させられたけれども、立腹した様子はなかった。いつも総理大臣としての政策をきちんと新しい総理大臣に引き継いでいた。これはどう思いますか」

孔子が、「それは忠と評価できる」と答えました。

子張が重ねて聞きました。

「では、仁者でしょうか」

孔子が、「そう見えるかどうかは知らない。そう軽々しく仁者とは口に出せない」と答えました。

更に子張が聞きました。

「齊の家老である崔子が主君を殺しました。崔子の同僚である陳文子はそれを見て、財産を捨てて齊の国を去りました。(馬十乗とは、一つの馬車には4頭の馬が繋がれていますから、馬が40頭という意味で、かなりの財産です)他所の国に行ってみたら、ここも我國の崔子と同じような人がいると言って、又、他所の国に行きました。すると、又ここも同じような人がいるとがっかりしてその国を去りました。これはどう評価されますか」

孔子が答えました。

「自らを清く保って、悪いものに汚されないようにしているので、それは清(清潔)である」

「では、陳文子は仁者ですか」と、子張が重ねて聞きました。

「仁者といえるかどうか、私はまだ分からない。どうしてそういう人を仁者と言えるのかね」と、逆に孔子が反応しています。

翻って今の日本を見ると、総理大臣としての政策をきちんと新しい総理大臣に引き継いでいるでしょうか。アメリカとの密約は、自民党政権が次々に変わる中で、自然と消えていって資料まで紛失したということです。情報を伝えるなという引継ぎでもあったのかと、勘ぐってしまいます。

更に、内閣総理大臣に何度も何度もお願いするような人物が、日本にいれば良いなと思います。最近そういう動きがあったのは、宮沢さんでしょう。総理大臣を辞めた後、請われて大蔵大臣になりました。

宮沢喜一さんで思い出すのは、木内信胤先生がおっしゃった言葉です。「あの子は通訳としては非常に優秀だったのに、なまじ総理大臣になったから、失敗するのだよ」と言われました。やはり人間は分を知らなければいけない。人間はなりたいと思うものと、なって力を発揮するものとは違うのだと感じます。

論語を読んでいくと浮かんでくるのは、「分を知る」ということです。自分の能力や自分のやりたいこと、自分の天分といったものを、どこかでハッと気が付く場面があります。その時を間違いなくしっかり捉えて、自分がやるべきことをやるべき年代にやる。これが良からうと思います。

春季合同フォーラムでお話する山田方谷は、45歳の時に財政改革を命じられています。当時の寿命は36歳です。山田方谷は45歳までずっと学校の先生をしていました。校長先生になり、功なり名を遂げて、もう人生終りという年になってから、新たな藩政改革に着手して72歳まで従事しました。ですから、二つの人生を生きたと言えるでしょう。

我々自分自身の人生を翻ってみて、今の寿命が何歳で、自分は何歳まで生きようと思うか、自分の寿命を考える。そうすると自然と余命が出ます。その間で何をしたいか考える。そしてそれが世の中の役に立つかどうかをよく自問自答してみるとよろしい。自分の天から与えられた使命は何かを考えて、それが自分のやりたいことと合致するかどうか。それがある程度納得できたら、今、自分のやっていることは、そのやりたいことに繋がっているかどうか。そういう考え方で、余命を調べてみる必要があるかだと思います。

## 基本哲学 知足

「知足」は考えれば考えるほど、生きていく上での人生哲学としては素晴らしいものだと感じます。ほどほどが良いという言い方をしますが、自分自身のやっている仕事をずっと突き詰めて考えてゆくと、<もっと利益を上げたい> <もっと売上げを伸ばしたい> という考え方は、どこかで止めなければいけないと思います。もっと、もっとを追求すると、

会社はどんどん潰れていくことになります。自分の会社だけ生き残ればよいのかと考えると、おや？ と、どこかでぶつかるようになる。

会社も寿命がありますから、その寿命を無視して無理やり生き抜こうとすると、ゾンビ集団のような世の中に害毒を撒き散らすようなものになってしまうと思います。会社経営でもほどほどのところを考える必要があると思います。例えば石原都知事のように、次は出馬しないと書いていたのに、選挙に当選したら前言を翻すようなことをする。やはり、ほどほどが良いと思っています。政治家としての旬を過ぎたら、次の芽を育てなければいけません。次の政治家を育てて、引っ張り上げて、表舞台に立たせてやる必要があると思います。そのことを落選するまで気が付かないとか、当選したけれども見るべきものがない、政治家としての晩節を全うしないで辞めざるを得ないような政治家も非常に多い。知足というものを考えないから、晩節を汚すことになるのだと思います。

### **最近氣になったこと - お金の話 -**

#### **日本の改革は我が地域から**

平成 21 年自公連立政権の時に、政府が今後の日本の国の借金の予測を出しました。平成 23 年度に日本国の借金は 1244 兆円になると発表しています。最近の評論家の話で聞こえなくなったのは、1000 兆を超すと日本の経済は破綻すると数年前から言われていましたが、まだ破綻はしません。まだ日本の国は普通に動いています。1244 兆円になった後は、言いつばなしで、手が付けられていません。

借金をする証文で国債が売り出されていますが、なかなか買い手がないので、個人に向けて盛んに販売をしました。ピークは 7 兆円消化されましたが、最近では 1 兆そこそままで落ち込んでいます。国債は紙くずになるかもしれないという考え方がかなり広がって、手を出さなくなっているのかと感じます。ですから日本の国のお金の問題は、どんどん悪い方向に向っていると思っていました。

ところが最近、明るいニュースを聞きました。「カレント」にも書きましたが、名古屋市の財政は、河村さんが市長になってからどんどん改革が進んできました。無理やり議会を通して、市民税を 10% 引き下げました。嬉しい動きです。その時に河村市長は、自分の給料を下げるどころから始めなければ周りの人にももの言えないということで、お給料を削って、年収 800 万以上は貰わないと宣言しました。

又、杉並区で住民税を 10% 下げるという目的で、10 億円の基金を作るという条例案が可決されました。

<日本再生の改革は我が地域から>という動きがポツリポツリ出てきているのは、非常に良いと思いました。大体皆さんがやることは、山田方谷の財政改革に相通ずるものがあります。まず首長さんが自分の給料を半分以上減らす。そこで耳目を集めて、減税を始める。疲弊しきった財政を立て直すには減税ですから、それから収入を図っていこうという動きです。政府がやっているものとはまるで正反対の動きが、地方からだんだん旗を揚げてくる感じが致しますので、良い流れが始まったと思います。世の中で同じような動きをしている自治体があったら、是非教えて戴きたいと思います。

### 生活保護

知らない間にお金というものは身体を蝕むし、成長もさせてくれます。今、非常に氣になっているのは、生活保護についてです。生活保護の金額は、私が聞いているのは3兆円という数字ですが、とにかく急激に増えています。

一昨年派遣村が民間で出来ました。その村長さんが菅さんに取り込まれて政府の一員になりました。生活保護を希望している人を手助けして生活保護が貰えるように応援するという動きを、NPOで一所懸命しています。民間に任せると生活保護がふえるので、昨年の暮れは、政府は公営の派遣村を作りました。これも私から見ると、時すでに遅しだと思います。ちなみに私が聞いた或るNPOは、民間の派遣村が出来た時は、生活保護を受けられるように応援する専従者が1人だったそうですが、公設の派遣村が終った時には3名になったそうです。

生活保護受給者が増えて、日本国の経済で見ると、とんでもない腫瘍になって来ています。今回の予算の中で生活保護という項目が出て来た時には、もう間に合わない数字になるだろうと思います。

翻って自分の会社、自分の家庭の中で、氣がつかない腫瘍があるかないか自問自答しておく必要があるだろうと思います。

以上で本日の講話は終了と致します。有難うございました。